

平成 26 年度第 1 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 26 年度第 1 回文系チャレンジ講座が、平成 26 年 6 月 18 日、「カントの政治思想と平和論」をテーマとして、本学経済学部教授の安岡正義先生によって行われました。

遠隔配信された大分鶴崎・大分商業・日田・安心院・高田・国東・別府青山・大分西・三重総合・臼杵の 10 校(230 名)と、今回、初めての試みとして大分雄城台高校(29 名)から授業配信を行い、計 259 名の高校生が受講しました。今回は入学間もない 1 年生も 8 名参加して、2 年生 184 名、3 年生 67 名で講座は開始されました。

いささか、講義題目が高校生にとって難解なようですが、安岡先生は、「自然状態とは何でしょう？自然状態が戦争状態であるとはどういう意味でしょう？カントの歴史哲学上の著作『啓蒙とは何か』(1784 年)や『世界市民という視点から見た普遍史の理念』(1784 年)、さらに『永遠平和のために』(1795 年)を読み解きながら、真に公正な市民的社会のあり方や永遠平和の条件を考えます。言論の自由の保障されている現在とは異なり、検閲制度のもとでカントの行った精一杯の同時代批判は、今なお我々を感動させることでしょう。」と、語りかけ授業は進められました。

カントが生きた時代は、ヨーロッパではパプスブルク帝国の支配に陰りが見え始め、各地に戦争のにおいが立ち込め出しました。1771 年、ロシアがクリミア半島を占領し、1772 年にはポーランドの分割が進み、1783 年、クリミアはロシアに併合されました。カントは、人間はなぜ戦争をするのか、戦争を根絶するためには何をすればよいのか、思案したはずです。

このような不安定な時代の中で、殆どの人間は他人の指示を仰がなければ自分の理性を行使できない。これは自分の理性を行使する決意も勇気も持っていないことによる。これを“未成年の状態”と言い、人間は自分の責任において、“未成年の状態”に留まっていると考え、自ら招いた“未成年の状態”から抜け出ることが求められている。これを「啓蒙とは何か」と、問いかけました。カントは、当時の人々に「自分の理性を使う勇気を持って」とうったえたのです。自分で考えることを避けて、他人に考えてもらい、その考えに従うことは人間にとって楽な生き方です。この楽な生き方を脱して、自分で考え行動することが、カントの考える啓蒙ということになるのでしょうか。

安岡先生は、当時の君主や平和について、カントの考えに沿って人間が敵対行為によって脅かされている戦争状態が自然状態であり、新たに創出されるべき法的状態が平和状態であると説明されました。アメリカ独立戦争(1775～83 年)、フランス革命(1789 年)の激動の 18 世紀において、後の第一次世界大戦(1914～18 年)後の国際連盟や、現在の国際連合の考え方を示したカントの姿勢は、戦争を肯定する見方が広がる当時のヨーロッパにおいて、画期的であったと同時に戦争に明け暮れた当時の社会に対する批判や風刺の意味もあったと結びました。

この講義を受講して、多くの高校生は、歴史の重要性にあらためて気がつかされたようでした。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(71%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(97%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(80%)という評価がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(76%)、「映像はよく見えた」(81%)という結果がでました。受講生の具体的な声として「難解な部分があったが、大学の雰囲気を感じることができた。」、「人間としてのあり方や社会への見方など、勉強が必要だと痛感させられた。」、「世界史の内容と重なる部分が多く、歴史的背景を知ることの重要性を知った。」、「話し方がゆっくりで、内容を理解するのに助かった。」、「考え方は現代にもつながっていることがわかった。」、「カントの正義感に感心した。」など多くの感想が寄せられました。

